

法人名 特定非営利活動法人こどもエコクラブ飯能 W

事業計画書

<p>事業名</p>	<p>すべての子どもと母親に地域で居場所づくり事業</p>
<p>種類</p>	<p>(1) SDGs 推進事業 (人間 豊かさ 地球 平和 パートナシップ) (2) 自立促進事業 (人間 豊かさ 地球 平和 パートナシップ)</p>
<p>1. 事業の目的</p>	<p>①これまでの活動・・・2011 年子育て中の母の有志が集まり子どもの居場所作りをスタート。2017 年児童養護施設「同仁学院」で施設の子どものとの交流体験学習を実施。2022 年埼玉県 NPO 活動促進助成事業にて「すべての子供に地域で学習支援事業」実施し児童養護施設での学習支援の拡大。放課後の小学生居場所づくりでは実績から小学校の空き教室を借り実施できるようになる。地域の協力者が広がる。</p> <p>②活動の中で明らかになった課題・・・</p> <p>1、2022 年度、埼玉県 NPO 活動促進助成事業にて「すべての子供に地域で学習支援」を実施。子どもだけでなく母親からの相談も多く子どもを取り巻く母親や家族の支援も必要だと感じた。</p> <p>2、通常子どもが産まれてからコミュニティを探したりし支援に繋がったりしている。出産前の妊娠中から妊婦を孤立させない支援が必要。助産師に気軽に相談し、先輩ママとの交流をもつ居場所が必要。</p> <p>3、夫婦共稼ぎ世帯が増える中、放課後や長期休暇中、小学生の居場所が少ない。学習支援や体験学習を地域でサポートし様々な大人と関わる事が子供の成長に必要。</p> <p>③課題に取り込むことの必要性・重要性・・・</p> <p>1、不登校の子どもは人との接触が少ない。家族だけでは解決は難しい。学校と家庭以外で子どもが安心して過ごし学習に取り組める居場所（サポートできる場所）が必要。障害をもった子どもが学校や自宅以外の社会と交流できる居場所が必要。様々な問題を抱えている子ども達に地域でサポートする人がいるという事を知ってもらえる。</p> <p>2、産前から不安を抱えて出産を迎える妊婦は多い。コロナ禍では特に孤立状態が深刻である。心のケアも重要。流産、死産を経験した人も多いが情報が少ない。母親が心を落ち着かせる場所が必要。</p> <p>3、放課後や長期休暇中、学校の先生や家族以外の地域の大人たちと交流し成長する事は重要である。自宅で留守番している時間の抑止にもなる。</p>

2. 事業の内容

- (1) 不登校・障害をもったお子さんを地域でサポート「町の保健室登校」となる居場所を創設。子どもと家族に学習及び体験学習、心のケアを実施。
- ①趣旨・不登校、障害をもった親子に学習の場、人との交流の場を提供。元養護教員を中心に少人数制で対応
 - ②実施期間・令和5年8月7日～令和6年2月5日（月1回、1月休み）
 - ③対象者・不登校、障害をもったお子さん及び家族、地域の方
 - ④場所・児童養護施設同仁学院、たんぽぽカフェ
 - ⑤参加見込人数・1回3名×月1回×6か月=18名
 - ⑥外部の協力者、団体・児童養護施設同仁学院、飯能市社会福祉協議会
- (2) 妊娠中から孤立させない子育て支援
- ①趣旨・①出産前から孤立しないための母親のサポート。少人数制で助産師を中心に対応。
②流産、死産を経験した方のサポート。グリーフケアサポーター（大切な人の死により喪失感や悲しみのなかにいる人に対しサポートする人）が中心に少人数制で対応。
 - ②実施期間・令和5年8月14日～令和6年2月26日（月2～3回）
 - ③対象者・産前産後の母親、子育て中の方
 - ④場所・たんぽぽカフェ、飯能市公共施設
 - ⑤参加見込人数・（3名×7回×2回）+（10名×6回）=102名
 - ⑥外部の協力者、団体・飯能市保健センター
- (3) 地域で小学生が長期休暇中などの休みの日、学習・体験できる居場所づくりを実施
- ①趣旨・地域子ども達に学習の場・体験学習を実施
 - ②実施期間・夏休み、冬休みなど小学生の休日
 - ③対象者・地域の小学生
 - ④場所・飯能市公共施設、屋外
 - ⑤参加見込人数・150名前後（15名×10日間）
 - ⑥外部の協力者、団体・飯能市教育委員会、地域の住民、地域の高校生・大学生
- (4) (1) (2) (3) を集結したイベントを開催
- ①趣旨・事業のPR、多くの方に知ってもらう。
 - ②実施期間・令和6年2月
 - ③対象者・地域方々
 - ④場所・飯能市公共施設
 - ⑤参加見込人数・123名
 - ⑥外部の協力者、団体・飯能市教育委員会、地域の住民、地域の高校生・大学生

3. 実施計画

- (1) 不登校・障害をもったお子さんと家族に学習及び体験学習を実施
- (2) 妊娠中から孤立させない子育て支援
- (3) 地域で小学生が休日、学習・体験できる居場所づくりを実施

○スケジュール

時期	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ打ち合わせ ・案内チラシ作成 ・協力機関、事業内容案内
8月	<ul style="list-style-type: none"> ①不登校・障害をもったお子さん居場所づくり 1日間（第1.火曜日実施） ②子育て中の母子及び家族向けに居場所づくり 2～3日間（火曜日実施） ③地域の小学生に夏休みの体験学習 4日間開催
9月	<ul style="list-style-type: none"> ①不登校・障害をもったお子さん居場所づくり 1日間（第1.火曜日実施） ②子育て中の母子及び家族向けに居場所づくり 2～3日間（火曜日実施）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ①不登校・障害をもったお子さん居場所づくり 1日間（第1.火曜日実施） ②子育て中の母子及び家族向けに居場所づくり 2～3日間（火曜日実施）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ①不登校・障害をもったお子さん居場所づくり 1日間（第1.火曜日実施） ②子育て中の母子及び家族向けに居場所づくり 2～3日間（火曜日実施） ③地域のお子さんに季節の行事イベント（アドベント Xmas）実施
12月	<ul style="list-style-type: none"> ①不登校・障害をもったお子さん居場所づくり 1日間（第1.火曜日実施） ②子育て中の母子及び家族向けに居場所づくり 2～3日間（火曜日実施） ③地域お子さんに冬休みの体験学習 2日間開催
1月	<ul style="list-style-type: none"> ①地域のお子さんに冬休みの体験学習 2日間開催 ②子育て中の母子及び家族向けに居場所づくり 2～3日間（火曜日実施）
2月	<ul style="list-style-type: none"> ①不登校・障害をもったお子さん居場所づくり 1日間（第1.火曜日実施） ②子育て中の母子及び家族向けに居場所づくり 2～3日間（火曜日実施） ③地域のお子さんに季節の行事イベント（節分・バレンタイン）実施 ③「居場所づくり感謝祭」イベントを実施

○広報計画

	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校のお子さんに情報が届くよう、飯能市社会福祉協議会の後援申請をし、案内チラシを配布 ・飯能市の広報誌に掲載依頼 ・地元ケーブルテレビ・地元新聞社（文化新聞）取材を依頼 ・妊婦および特に乳児を育てる家族に情報が届くよう、飯能市保健センターに案内チラシを配布 ・子供への学習支援・体験学習チラシ絵お市内小学校に配布（市の後援依頼）公共施設に配架。 ・メンバーSNSにて周知 ・地元飯能信用金庫さんのラインメンバーに案内依頼
4. 実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ①総括責任者・小林愛 ②連絡責任者・内山順子 ③現場責任者・小林愛 ④経理担当者・三浦美里 ⑤広報担当者・木部つかさ
5. 事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ①不登校のお子さんへの支援 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と学校だけでなく地域に居場所がある事を広く認知される。孤立・ひきこもり抑止につながる。 ・個人の現状に合わせ様々な学習や体験学習を支援、学びを止めない。 ・不登校のお子さんに学校以外でも学習する機会を提供。 ・親や先生以外の大人と関わりをもち多様な考え方に触れられる。 ②障がいをもったお子さんへの支援 <ul style="list-style-type: none"> ・通常級の児童に比べ特別支援学級の児童は社会で体験できるワークショップなどが少ない。様々な体験学習を選択できるよう機会を提供し居場所をつくる。 ③地域の小学生のための長期休暇、体験学習と居場所づくり <ul style="list-style-type: none"> ・共稼ぎ世帯の増加に伴い、小学生が一人で留守番している現状を回避。 ・様々な体験を上げ成長できる。地域の住人と関われる。 <p>☆様々な環境下にいる子供達に居場所を作ることで子ども達の体験値もあがる。子供の頃の体験は健やかな成長を助長する。地域で「居場所づくり」が広げ地域に住む方々にも子ども達に関わってもらおう。</p> <p>☆対象をすべて方々に向けイベントを実施する事で新たな出会いと可能性が広がる。地域にも居場所づくりの存在を知ってもらえる。</p> <p>☆昨年度、埼玉県 NPO 活動促進助成事業で活動し、児童養護施設での学習支援は協力者の増加、支援者の増加があり活動に広がりを見せました。</p> <p>放課後の小学校の居場所づくりでは市内小学校の施設を借り実施できる事になりました。今年度は昨年活動した上で見えた、問題点、母親の支援を深め、母親と子どもの支援をし自分の居場所が見つけられるような効果を目指す。</p>

◎応募の際に本予算書で計上しなかった経費項目は、事業実施時に支出が生じたとしても対象経費とはなりません。

法人名 特定非営利活動法人こどもエコクラブ飯能 W

事業収支予算書

1 収入の部

項 目	予算額 (円)	積算内訳
助成希望額 (千円未満切り捨て)	500,000	
自己資金	26,726	寄付金 26,000 円 団体資金 726 円
事業実施による収入等	50,000	参加費@500×100人=50,000
その他		
合 計	576,726	㊤

2 支出の部

項 目	予算額 (円)	積算内訳
会場費	25,600	会場使用料 800 円×27 回=21,600 1,000 円×4 回=4,000
通信運搬費	1,500	配送料
旅費交通費	1,500	交通費・駐車場代
消耗品費	190,730	不登校・障害をもったお子さんの体験学習にかかる材料費 31,416 円(石鹸作り・ハーブ手作りなど) 聴診器 15,000 円・ 血圧計 10,000 円 産前産後の親子にかかる材料費 31,416 円(マスクスプレー、赤ちゃんの靴下手作り品作成、手形記念身だしなみメイク、ネイルレッスンなど) 地域の小学生の長期休暇中の体験学習 31,416 円(調理実習・ディンプルアート・手作り品・フラワーアレンジメント等)

		インクジェット 9,960 円・ラジカセ 5,000 円・スピーカー 5,000 円・CD 4,000 円デジタルカメラ 47,522 円
備品費	0	
委託費	17,796	チラシ印刷費 7329 円 (3500 枚) × 2 回 3138 円(500 枚)
謝金	123,000	講師謝金 5,000 円 × 15 人 = 75,000 円 補助スタッフ 3,000 円 × 16 人 = 48,000 円
人件費	194,000	講師 (無給会員) 5,000 円 × 13 人 = 65,000 円 補助スタッフ (無給会員) 3,000 円 × 43 名 = 129,000 円
その他	22,600	保険料 580 × 35 件 = 20,300 円 コピー機使用料 10 円 × 50 枚 = 500 60 円 × 30 枚 = 1,800 円
合 計 (事業費)	576,726	㊸

収入の部の合計 (㊸) = 支出の部の合計 (㊹)